



主催：一般財団法人 野間文化財団
協力：富士市教育委員会文化財課
公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

令和5年度 重要文化財「古谿荘」 玄関棟ほか8棟建造物保存修理事業 第Ⅰ期修復現場見学会



古谿荘について

古谿荘は、明治39年(1906)から42年(1909)にかけて、当時の宮内大臣であった田中光顕によって建てられました。その広さは、敷地面積約16,000坪、建坪約520坪に及びます。建造物は、表向きの広間棟、大広間棟をはじめ、居間棟、応接棟、八角堂などの居住部分から、管理棟や板蔵などの家政部分まで全体が完存しています。格調高い書院造りを基本とする中にも数寄屋を取り入れ、伝統的な和風意匠を取り入れながらも近代的な技術、西洋風の意匠・材料を巧みに採用するなど、和風近代建築の傑作と呼ぶにふさわしい存在です。

【国重要文化財指定概要】

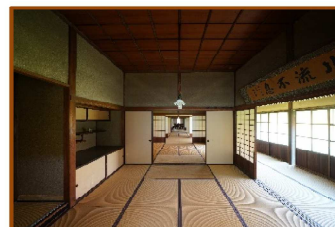
指定内容

建物名称	構造	建築面積
玄関棟	木造、スレート葺	55.89㎡
応接棟	木造、棧瓦葺	453.48㎡
広間棟	木造、鉄板葺	175.43㎡
大広間棟	木造、鉄板葺	251.19㎡
居間棟	木造、スレート葺	207.95㎡
八角堂	木造、スレート葺	128.63㎡
管理棟	木造、棧瓦葺	147.43㎡
内蔵	土蔵造、二階建、棧瓦葺	164.95㎡
板蔵	木造、三階建、棧瓦葺	129.13㎡
建築総面積		1714.08㎡(約520坪)

- 指定名称
古谿荘(こけいそう) 9棟
- 指定年月日
平成17年(2005)12月27日
- 指定番号
建第2476号
- 所在地
静岡県富士市岩淵233番地
- 所有者
一般財団法人 野間文化財団

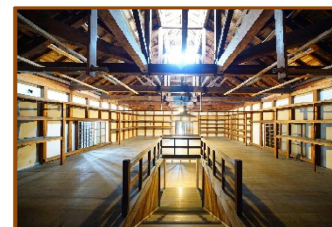
附・平面図 2枚(大正5年、大正8年)
宅地 18,838.74㎡(約5,700坪)
(門、守衛所、石造橋、石造擁壁を含む)

古谿荘 案内図



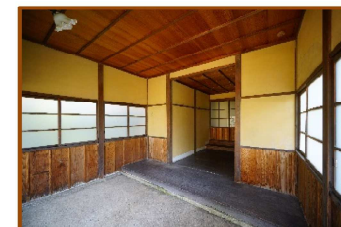
応接棟

客人を受け入れる応接空間。ドイツ製の分電盤が設置されている。



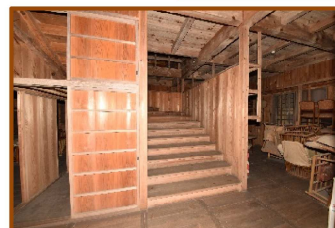
板蔵

鉄板で覆われた3階建ての蔵。内部は漆喰塗になっている。



管理棟

管理や事務業務を行う建物。各棟から受信できる呼び鈴盤がある。



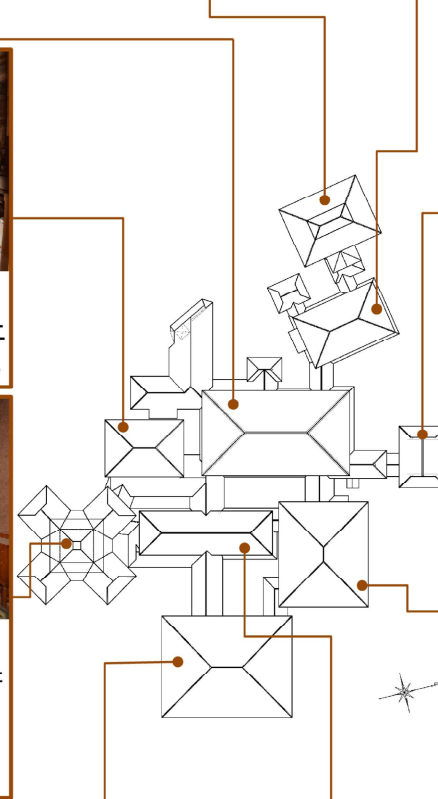
内蔵

建物と隣接する2階建ての土蔵。緩やかな大階段がある。



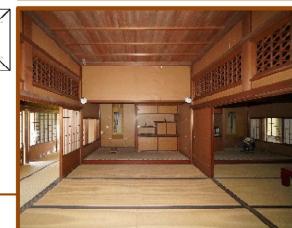
八角堂

八角形の建物内に寝室や書斎が並ぶ。貴重な金唐紙を壁紙に使用し、輸入ガラス・電球などが使われている。



玄関棟

軒の高い車寄から6畳ほどの玄関が続く。廊下は舟底天井で軒裏は芋殻張り。



広間棟

二つの床の間が左右対称に並ぶ。通称「富士見の間」と呼ばれている。



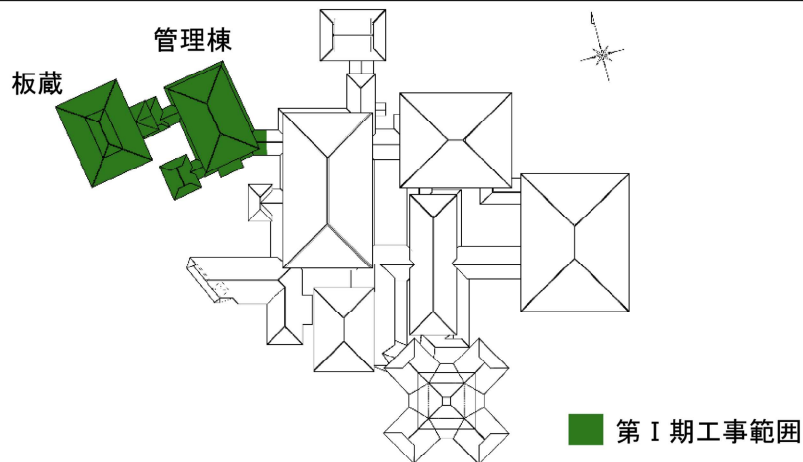
大広間棟

約104畳の大広間。トラス構造の屋根で、6畳の床の間を左右に構える。伝統的な書院造りになっている。



居間棟

松、竹、梅の間の3部屋が連続して並ぶ数寄屋風の居室。居住部分として大きな浴室がある。



補助事業名	
重要文化財「古谿荘」玄関棟ほか8棟建造物保存修理事業	
事業期間	事業の組織
令和3年11月～令和13年3月(予定) 第I期工事: 令和3年11月～令和6年3月(予定)	事業主 一般財団法人 野間文化財団
工事範囲	設計監理 公益財団法人
建物全9棟の工事を期間を分けて実施	文化財建造物保存技術協会
工事内容	工事請負 株式会社 魚津社寺工務店
屋根葺き替え・部分解体修理工事、耐震工事、防災工事等	

文化財の建物と保存修理について

文化財を含む全ての建造物は風雨や時の経過にさらされ次第に劣化していきます。長い歴史の中で奇跡的に残ってきた建物を後世へ受け継いでいくためには、保存修理が必須です。しかし、文化財は唯一無二で再現が難しく、容易に再現できるものではありません。

特に、文化財の修理にあたっては、行政機関・専門家・技術者が力を合わせ、見た目だけでなく歴史的な価値を尊重して修理を行います。

化学製品を使用せず「現状以上の劣化を防ぐ」ことを目指した保存修理、または、科学的な分析に基づき使用を決めた塗料や材料を使用可能な範囲で補助的に行う復原工事を実施しています。

伝統建築工匠の技

「木造建造物を受け継ぐための伝統技術」が、令和2年(2020)12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

これは、自然素材を建築空間に生かす知恵、周期的な保存修理を見据えた材料の採取や再利用、健全な建築当初の部材とやむを得ず取り替える部材との調和や一体化を実現する高度な木工・屋根葺(ぶき)・左官・装飾・畳など、建築遺産とともに古代から途絶えることなく伝統を受け継ぎながら、工夫を重ねて発展してきた伝統建築技術です。

国の選定保存技術に選定されている17件の伝統建築技術により構成されています。

(文化庁「文化財遺産オンライン」より)

古谿荘修復工事の流れ

1 建物の解体

解体は、壊すのではなく分解をしていくイメージです。部材一つ一つが重要な情報を持つものなので、壊して捨てるのではなく、保存しながらほどいていく作業です。釘を一本一本丁寧に抜いて古い材料にダメージを与えないよう慎重に行います。



▲瓦屋根の解体

▼外部鉄板の解体



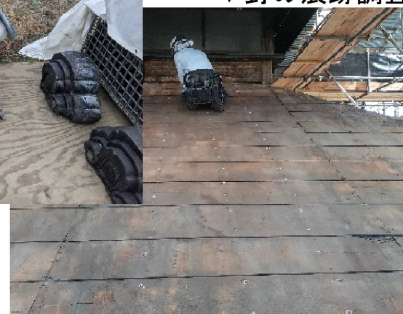
2 調査と記録

実測調査や痕跡調査、文献・資料調査など、さまざまな調査を実施し、文化財の歴史的背景や変遷を検討します。また、損傷や劣化の程度、材料や技術の分析を通じて、修復年代を判断します。この過程で、正確な情報を記録として残し、後世に継承していきます。



▲瓦の選別

▼釘の痕跡調査



3 修理 ～匠の技～

修復工事では高度な技術が必要です。

工事では、現代の電気工具だけでなく、鑿(のみ)、鉋(かんな)、手斧(ちょうな)なども使用して修復作業を行います。

文化財の価値を損なうことなく修復を行うためには、形状だけではなく技法も再現する必要があります。



▲こけら葺き

▼手斧



完成

管理棟について



管理棟の特徴

管理棟の特徴は、現在は少なくなった麻の茎を乾燥させて作られた苧殻が外壁や軒裏に使用されていることです。また、土壁には櫛引漆喰と呼ばれる漆喰壁が施されており、この漆喰が乾く前に櫛を使って等間隔に筋をつける技法が用いられています。この技法は高度な技術が必要であるとされています。



おがら
苧殻



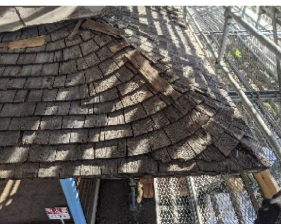
くしびきしっくい
櫛引漆喰

解体してわかったこと



三種類の屋根が重なっていた

玄関の瓦棒鉄板葺きの金属屋根を解体していくと、下から異なる種類の金属屋根が現れました。それは、富士型とともれる台形の板金屋根でした。さらに、その板金屋根を解体すると、栗の木の板を細かく重ねたこけら葺きが現れました。このように、屋根の形状が何度も環境に合わせて変更されたことがわかりました。今回の修復工事では、文化財指定時の姿(瓦棒鉄板葺き)に戻すことに決定しました。



こけら葺き 補修前



こけら葺き 補修後



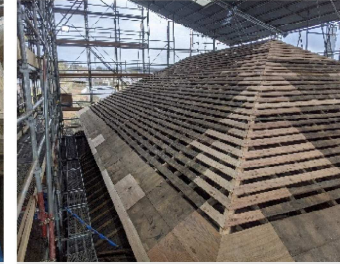
修理状況

〈大工工事〉

- ・屋根補修…屋根面不陸調整、野地野垂木取替
- ・床組補修…大引、根太、床板部分取替
- ・渡り廊下解体復旧…半解体修理



桁の腐朽部分の補修



屋根下地の補修



床組の補修

〈屋根工事〉

- ・瓦葺き…瓦選別、杉皮葺き、耐震棟取付
- ・こけら葺き…部分葺き替え
- ・板金屋根葺き…ガルバリウム鋼板葺き替え



杉皮葺き



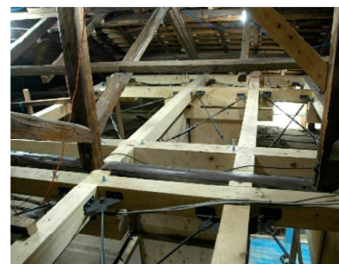
耐震棟の設置



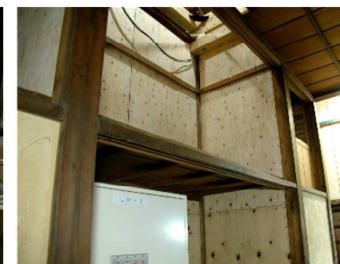
瓦葺き 完了

〈耐震補強工事〉

- ・小屋裏水平補強…補強梁取付、水平ブレース取付
- ・合板補強壁
- ・床下補強梁…補強梁取付、耐震補強金物取付



小屋裏水平補強



合板補強壁



床下補強梁

板蔵について

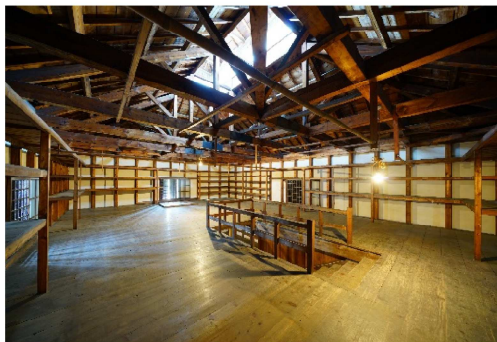


板蔵の特徴

板蔵の特徴は、外部が全面鉄板で覆われ、その上にコールタールで塗装された、真っ黒な蔵であることです。内部の壁は全体が漆喰塗り。屋根はトラス構造なので、3階には広々とした大空間が広がっています。

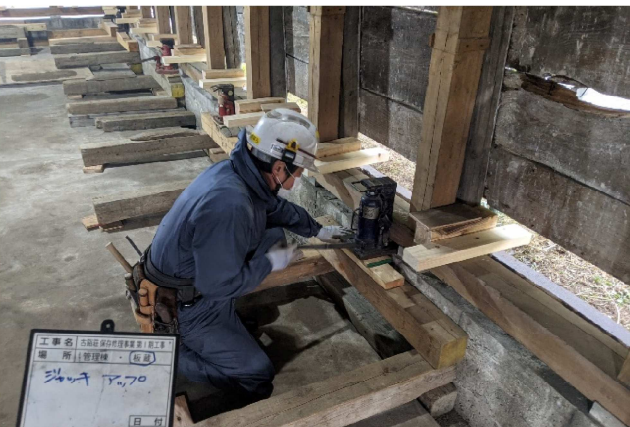


鉄板張り



トラス構造

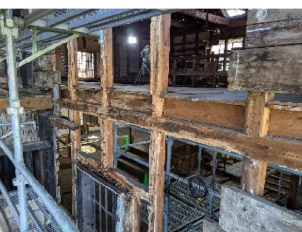
解体してわかったこと



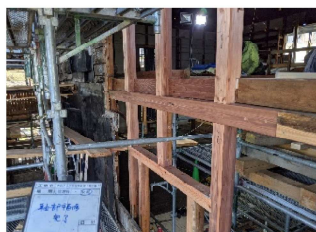
ジャッキアップの様子

建物をジャッキアップ

板蔵の柱や土台はシロアリによって腐朽していました。ジャッキを使用し建物を東西1.5cmずつ交互に上げていき、最終的に9cm宙に浮かせました。そのままでは直すことができなかった傷んだ柱や土台を新しい木材に取り替えることができました。



外壁 腐朽状況



外壁 補修後

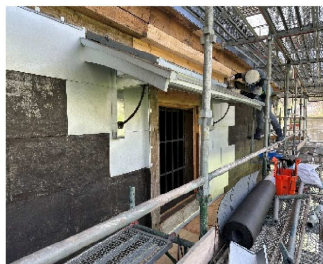


土台 継木補修

修理状況

〈板金工事・塗装工事〉

- ・外部鉄板張り…部分張替え、一部^{ひし}底張替え
- ・旧塗装剥離…^{はくり}ケミカル剥離剤、ケレンがけ、高圧洗浄
- ・塗装…^{あつまく}厚膜フッ素塗装



外壁鉄板葺き



旧塗装 剥離



厚膜フッ素塗装

〈左官工事〉

- ・漆喰塗…ひげこ打ち、^{すなしくい}砂漆喰、漆喰上塗り
- ・土間補修…モルタル薄塗補修



ひげこ打ち



漆喰塗



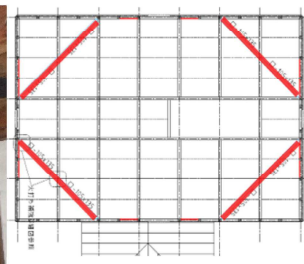
板蔵 塗り壁工程

〈耐震補強工事〉

- ・水平補強…^{ひうちばり}火打梁設置、補強金物取付
- ・合板補強壁

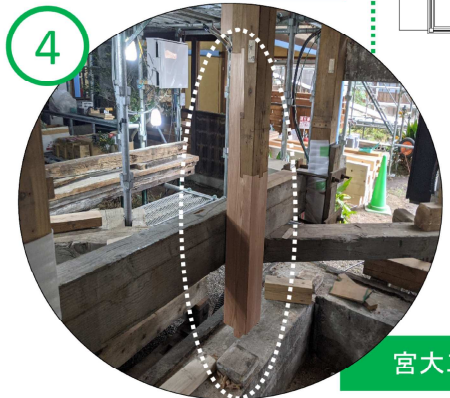
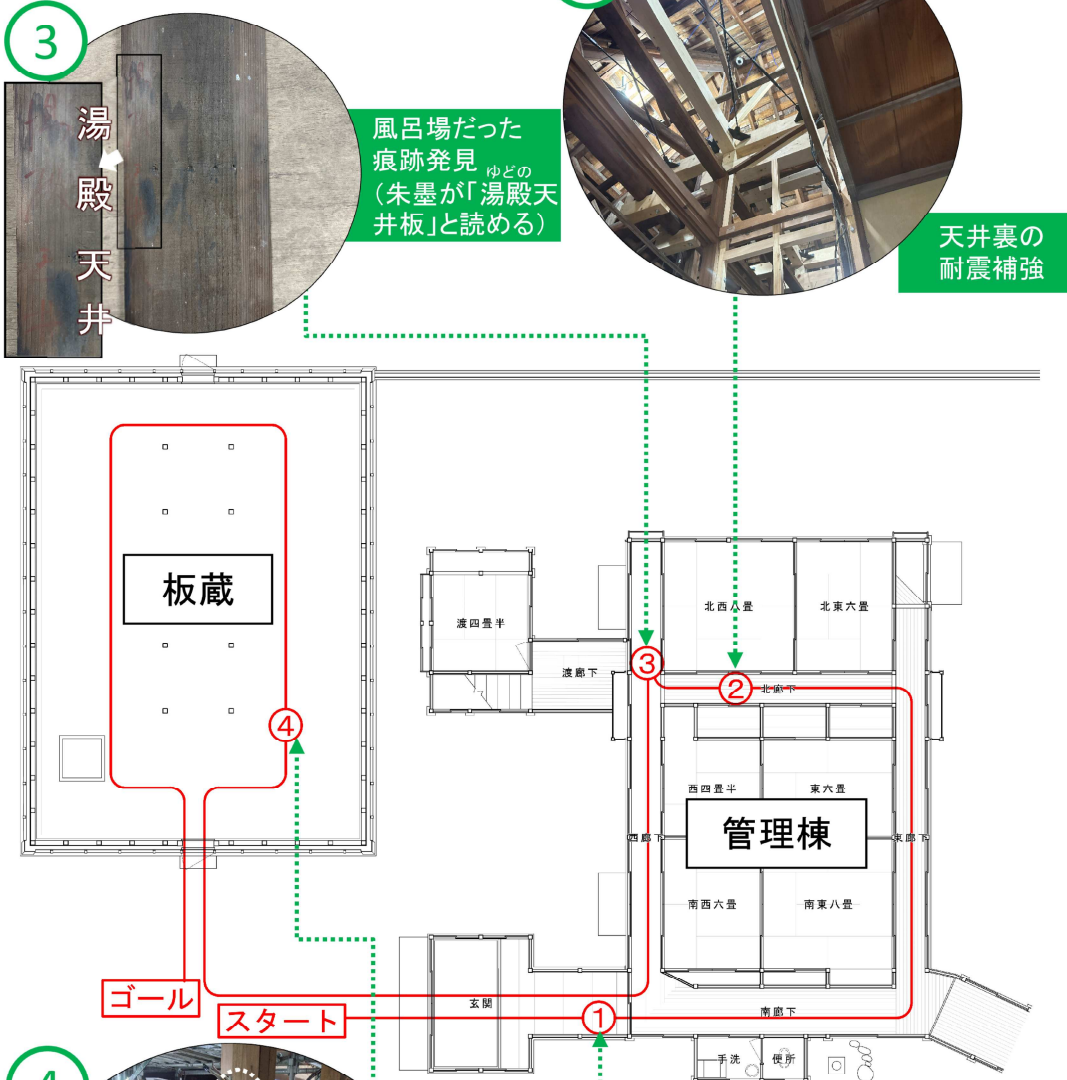


火打梁 設置:赤線部分



耐震補強壁の配置:赤色部分

内部見学ルート



外部見学ルート

